

聖書箇所: マタイ9:35-38 中心聖句: マタイ25:21

タイトル: 収穫のための働き手 特別行事: OIC創立39周年、子どもたちの発表

I. 導入

創立記念おめでとうございます。1974年10月13日、ジャック・マーシャル牧師の司式のもと、OIC第一回目の礼拝が行われました。その日以来、主はOICに祝福を注いでくださっています。新しい働き手を教会に与えてくださり、また教会から全国および世界中に働き手が送り出されました。OICの中で、またOICをとおして、主がなさしてくださった働きを覚えて、私たちは多いに喜んでいきます。



11年前、主は私たち夫婦をOICに導かれました。そして近年では、ジョセフやアダム、ブライアン、サンボといった働き人たちとその家族を収穫のための働き手としてOICに加えてくださいました。主が与えてくださった宣教師一人ひとり感謝します。しかし、福音伝道の働き手として思い浮かべるのが宣教師や牧師だけなら、重要なことを見落としていることになります。

この写真を見てください。この広い畑には、数人しか働いている人がいません。広大な畑に働き手が少ないのです。では、こちらの写真を見てください。それほど大きな畑ではありませんが、10人以上の働き手が収穫作業を手分けして行っています。このように、たくさんの働き手が協力すれば、負担が軽くなり、作業時間も短縮されます。



主はOICにとっても大きな畑を与えてくださいました。私たちの教会家族には、京都、神戸、奈良など関西一円からの人々がいます。もちろん、この地域を他の教会と共有しているわけですが、それでも、全域にわたる宣教の働きを牧師や宣教師が一手に担えないのは明らかです。私たちがともに働かなければ、収穫はもたらされません。



エフェソ4:11-12にあるパウロの言葉を見てみましょう。「4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、」教会の霊的指導者たちには、神の民を良い働きのために備えるという任務があります。しかし、奉仕の働きは全員に与えられた任務です。教会の兄弟姉妹が皆そろって働きに参加するなら、負担が軽減され、働きはますます前進します。

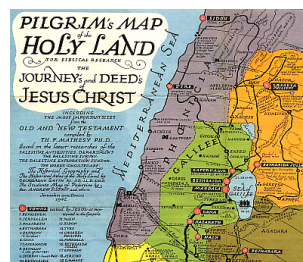
このことについて、イエスが弟子たちに話されたことばをマタイ9:35-38から読みましょう。

II. 聖書朗読(マタイ9:35-38, 新共同訳)

9:35 イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病気や患いをいやされた。 9:36 また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。 9:37 そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。 9:38 だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう

III. 教え

イエスは、訪ねた町々で福音を告げ知らせ、人々に仕えました。けれども、そこにはたくさんの町がありましたし、訪れた町にはたくさんの人々がいました。そこでまもなく、イエスは12人の使徒を選び、ご自身の名によって送り出されました。その後、ルカ10章では、72人(70人とされる訳もある)の弟子たちを任命し、ご自分の行かれる町や村に前もって彼らを遣わされました。



十二使徒は、特別な召しをいただきました。一方、72人の弟子たちは、教会全体の象徴と考えることができます。イスラエルの群衆と同じく、私たちの周りにいるたくさんの人々は、羊飼いを失った羊のようです。それは、偉大な牧者イエスを知らないからです。豊かな収穫がもたらされるという見込みはありますが、それにはもっと働き手が必要です。



私たちOICは大きな祝福を受けています。神の栄光のために懸命に仕える人々がたくさん与えられています。受付係、賛美チーム、通訳者、日曜学校の教師やヘルパーとして奉仕する人がいます。伝道の一環として英語や日本語を教える人がいます。スモールグループの学びや家庭集会をリードする人もいます。アルファリーダーとして奉仕する人たちもいます。これ以外にも、たくさんの方が奉仕に関わっておられます。



教会開拓をする人もいます。来週の日曜には、ジョセフ牧師とエイミーが長居ユースホステルで日曜礼拝を始めます。この働きに加わるように主に召されたと感じている人もおられるでしょう。もしそうなら、主をたたえます。新しい教会を始めるにあたって、中心となって手助けする人が必要だからです。この働きにOICが協力できることは、特権であり祝福です。



長居で始まるアバイド・カルバリチャペルの開拓は新しい働きですが、教会開拓の働きにOICが協力するのは初めてのことはありません。OICが起点となってできた教会はたくさんあります。とくにDMI国際ろう者支援会のルーツはここOICにあります。新しい教会は、既存の教会に

比べて新しい人に来てもらいやすいといわれます。ですから、新しい教会ができたという知らせを私たちは喜ぶべきです。

新しいことに戸惑いを感じるのは当然です。私たちの多くは、変化を好みません。平凡な道を歩むのが無難だと、一般的にも思われます。これとは対照的に、イエスは弟子たちに無難な道を進むようにとは決して教えられませんでした。イエスが72人におっしゃったことばは次のとおりです。ルカ10:3-4 「10:3 行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。それは、狼の群れに小羊を送り込むようなものだ。 10:4 財布も袋も履物も持って行くな。途中でだれにも挨拶をするな。」 この過激とも取れる教えは、社会一般の教えと正反対です。イエスは弟子たちに、安全な道を進めとはおっしゃいません。むしろ、生き方も働き方も信仰によって大胆であるようにと命じられました。弟子たちは食料も持たずに出かけました。食料や宿泊に払うお金も持たなかったのです。



とは言え、これは特別な例です。大阪でお金も持たずに出かけたりしないほうがよいでしょう。ただし、すべてにおいて神を信頼するという点では、この弟子たちを見習いたいものです。どこよりも安全な最善の場所は、神のみこころの中です。神の愛と摂理は、どんな預金残高や職業よりも確かなものです。主の名によって仕え、神の御国の福音を告げ知らせる人々の必要を、主は満たしてくださいました。主は私たちにも同じようにしてくださいます。

食べ物や宿泊はどうしたのでしょうか。神は、荒野でイスラエルの民になさったように、天からマナを降らせることもおできになりました。けれども、人をとおしてお働きになることを選ばれたのです。弟子たちが人々に仕えたと、その人々が彼らを家に招いて食事を出しました。奉仕を続けるために必要なものはすべて、弟子たちが仕えた人たちからいただきました。この原則は、宣教師の間でよく言われる言葉に表されています。「収穫の中に資源がある」というものです。伝道と弟子作りの働きが、働きの継続と拡大に必要な物資をもたらすのです。

ここOICでも、アルファコースが「収穫の中に資源がある」という言葉を具現化した代表例でしょう。ほとんど毎コースで、受講者の中から洗礼を受ける人が出ます。また、次のコースを手伝うボランティアも起こされます。アルファのリーダーはアルファの受講者だった人たち自身です。そのほとんどが、教師や伝道師としての特別な召しはない人です。彼らは一般信徒です。多くの場合、自分のできる範囲で主に仕えようとする新しいクリスチャンの人たちです。



現代では、農家の人々は種を毎年購入します。けれども昔はそうではありませんでした。翌年に蒔く種は、今年の収穫から得ました。同様に、教会の将来のための資源は、人々に福音を伝えることの中にあります。福音の種をまき、たましいの収穫を祈らなければ、教会に将来はありません。これは、教会全体の任務です。



IV. 結び

マルコ16:15で、主の愛を分かち合いなさいとイエスははっきり命じておられます。「それから、イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』」これは私たち全員への命令です。明らかな命令があるなら、特別な召しを待つ必要はありません。人に福音を伝える方法がわからないという人もいるかもしれませんが、神はすべての必要を備えてくださいます。私たちが神の命令に従うために必要なものも、ときには驚くべき方法で与えられます。

主が燃える柴からモーセに語られたとき、モーセはまったく心の準備ができておらず、いろいろ懸念がありました。きっと、イスラエルを解放する能力が自分にはないと思っていたのでしょう。しかし、出エジプト4:2にはこうあります。「主は彼に、『あなたが手に持っているものは何か』と言われた。彼が、『杖です』と答えると、」主は、その杖を使ってイスラエルの民を解放に導くことをモーセに教えられました。神は、私たちにはないものを使うようにとはおっしゃいません。むしろ、持っているものを使う意思が必要だとおっしゃいます。あなたの手に持っているものはなんですか。神はそれをお用いになることができます。



タラントンのたとえ話は、神が私たちに託してくださったものを使うことを教えてくれます。たとえ話のタラントンはお金のことですが、神の働きのために私たちに与えられたものすべてを象徴します。主人はしもべにタラントンを与えて長旅に出ました。旅から帰ると、主人はしもべたちに清算するよう言いました。今日は、ひとりのしもべの例だけを見ることにしましょう。マタイ25:20-21「25:20 まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』25:21 主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』」言葉と行動でイエスの愛を分かち合い、神の栄光のために働くなら、私たちも主とともに喜ぶことができます。

イエスは十字架上でご自身の命をささげ、この世の罪の代価を支払われました。三日後、主は死からよみがえって40日間にわたって弟子たちに何度も現れました。その後、天に戻られました。先ほどのたとえ話を私たちにあてはめると、主が畑の世話を私たちに任せて長旅に出られたと言えます。けれども主は必ず戻って来られます。そのとき、主の名によってどう仕えたのか、主が私たちに託してくださったものをどう使ったのか、主の前で一人ひとり報告しなければなりません。



私たちが教会としても個人としても、神が与えてくださった畑での働きに精を出しますように。最善を尽くして、すべての人に福音を告げ知らせますように。いろんな障壁や問題が持ち上がっても、そのことばかりに目を向けてはいけません。そういった問題を乗り越える秘訣は、主を見つめつづけることです。最後に、ヘブライ12:2のみことばを読んで終わりにしましょう。「信仰の

創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。」

V. 祈り